



**int targetId**

引数 patterns で指定されたデータの保存先を示します。P901iS では、複数のデータを端末へ保存させることが可能となっており、targetId に 1 から 11 の値を指定することにより 11 通りのデータを端末へ保存することが可能となります。また、targetId に 0 を指定した場合、P901iS では、プレビュー機能を設けており、即座にドットエリアを点灯します。

指定された targetId (1 から 11) の保存場所、表示方法について下記に記します。

targetId	保存場所	表示方法
1~10	端末のドットエリアに保存	待受け画面表示中に端末を閉じた場合、または定時刻に表示されます。(メニューより設定する必要があります)
11	情報表示用として保存	サイドボタン押下時に表示されます。(メニューより設定する必要があります)
0	設定は保存されない	メソッドを呼び出した時点で即時に表示されます。

**String title**

保存先のタイトルを指定します。P901iS では、20byte までの文字列を設定可能とし、タイトルが全てスペース、もしくは空文字列の場合、UIException (UNSUPPORTED\_FORMAT) を発生させます。

**long expire**

保存する待受け画像の有効期限を指定します。1970 年 1 月 1 日午前 0 時 0 分 (GMT) からのミリ秒数を指定します。負の値を指定した場合、有効期限なしとなります。

また、P901iS では、1999 年以前、2099 年以降を指定した場合も有効期限なしとして動作します。

**int repeat**

保存する待受け画像の繰り返し回数を指定します。0 が指定された場合、無限に繰り返されます。P901iS で設定可能な値の上限は 255 であり、それを越えた値が指定された場合は 255 が設定されたものとして動作します。

**int[][] patterns**

引数 patterns の設定方法は、実装に強く依存します。P901iS では、以下の仕様に基づいてこの引数を設定する必要があります。

- ・ドットエリアの点灯パターンは複数ページの点灯イメージデータから構成されます。実際に携帯電話上で表示される際には、この複数枚の点灯イメージデータが順番に表示されます。
- ・引数に指定する int 配列は、第一次元が点灯イメージデータのページ番号、第二次元がそのページの点灯イメージデータの設定項目を表します。
- ・P901iS では、1 つのパターンデータ内に最大 150 ページ分のイメージデータを持つことができます。150 ページを超えるデータが指定された場合は、150 ページまでのデータが設定されます。
- ・点灯イメージデータの 1 ページ分のデータは、61 個の int 値から構成されます。点灯イメージデータ 1 ページ分の int 配列の構成は以下の通りです。なお、以下の表に記載されている蛍動作とは、ドットパターンの点灯または消灯において徐々に点灯 (フェードイン) もしくは徐々に消灯 (フェードアウト) させる機能のことで、これらについては次項「●点灯方法と蛍動作について」も参照してください。

配列添字	内容	備考
0	点灯パターン	点灯パターンの設定値は「●点灯方法と蛍動作について」を参照してください。
1	表示色	P901iS では使用されません。
2	表示輝度 (0~255)	登録時には 10 段階に丸められます。
3	蛍輝度割合 (最大) (0~255) ※1	P901iS では使用されません (常に 255 を指定した場合の動作となります)。
4	蛍輝度割合 (中間) (0~255) ※1	登録時には 16 段階に丸められます。
5	蛍輝度割合 (最小) (0~255) ※1	登録時には 16 段階に丸められます。
6	蛍点灯時間/通常点灯時間	蛍点灯時間/通常点灯時間を ms 単位で指定します。実際の動作時間は端末がサポートする値に丸められます。
7	蛍消灯時間	蛍消灯時間を ms 単位で指定します。実際の動作時間は端末がサポートする値に丸められます。
8	蛍動作 1	蛍動作 1 を行う時間を ms 単位で指定します (蛍動作の詳細は次項「●点灯方法と蛍動作について」参照)。実際の動作時間は端末がサポートする値に丸められます。
9	蛍動作 2	蛍動作 2 を行う時間を ms 単位で指定します。実際の動作時間は端末がサポートする値に丸められます。
10	蛍動作 3	蛍動作 3 を行う時間を ms 単位で指定します。実際の動作時間は端末がサポートする値に丸められます。
11	蛍動作 4	蛍動作 4 を行う時間を ms 単位で指定します。実際の動作時間は端末がサポートする値に丸められます。
12~ 60	7x7 のドットパターン (49 要素) 0 が消灯、0 以外が点灯	ドットパターンの配列構造については次々項「●ドットパターン」を参照してください。

※1: 蛍輝度割合については、最小<中間<最大の関係を満たさない場合、フォーマット不正として例外 UIException (UNSUPPORTED\_FORMAT) が発生します。

●点灯方法と蛍動作について

蛍動作の有無といった点灯方法については、点灯イメージデータの0番目の要素（点灯パターン）で指定することができます。この要素に設定できる値とその意味（点灯方法）の関係は以下の通りです。

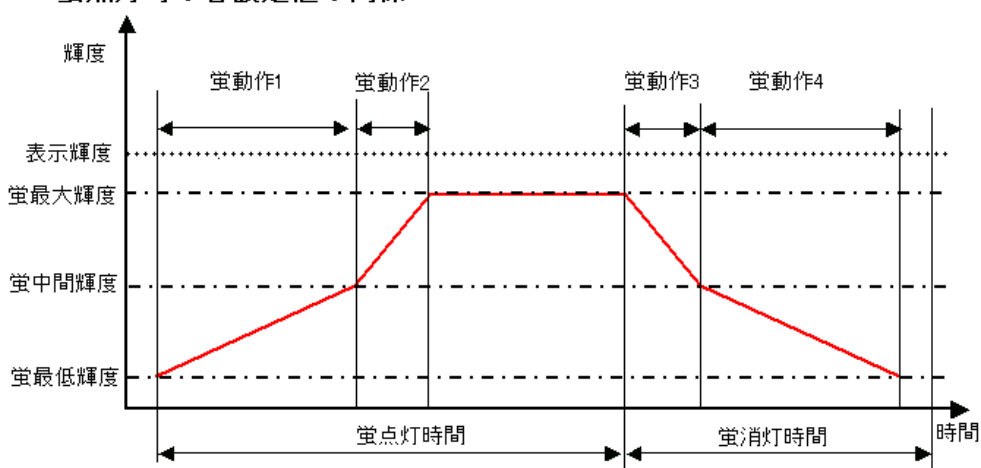
設定値	点灯方法
0	通常点灯
1	蛍点灯(フェードイン・アウト)
2	片蛍点灯(フェードイン)
3	片蛍点灯(フェードアウト)

通常点灯を指定した場合、点灯イメージデータの表示輝度（2番目の要素）、通常点灯時間（6番目の要素）のみ有効となり、指定した表示輝度で通常点灯時間だけ点灯が行われます。

片蛍点灯(フェードイン)、片蛍点灯(フェードアウト)、蛍点灯(フェードイン・アウト)を指定した場合は、これらに加え蛍消灯時間（7番目の要素）に含まれる動作が行われます。蛍点灯時間・蛍消灯時間と、点灯パターンの各設定値との関係は以下の図の通りです。

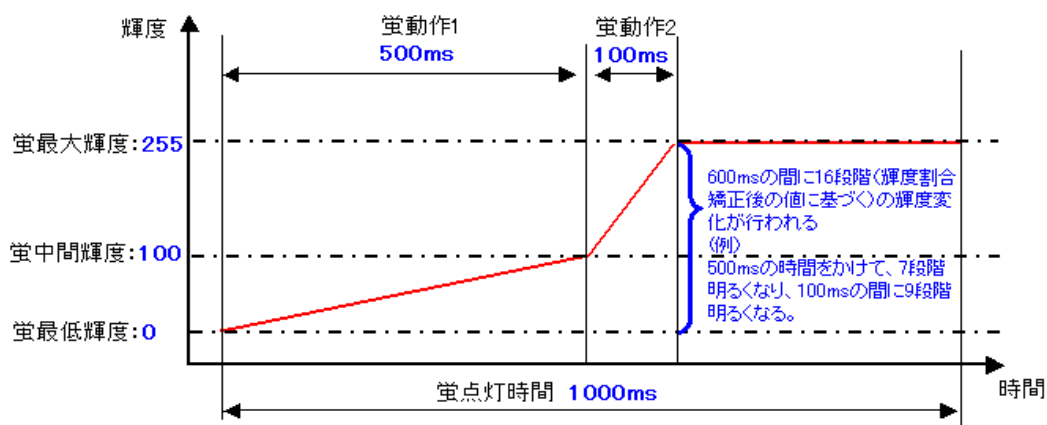
(P901iS では表示輝度＝蛍最大輝度となります)

蛍点灯時の各設定値の関係



例として、下記の値が設定された場合の動作を示す。

点灯パターン	2	蛍点灯時間	1000ms
蛍輝度割合(最大)	255	蛍動作1	500ms
蛍輝度割合(中間)	100	蛍動作2	100ms
蛍輝度割合(最小)	0		



●ドットパターン

配列の添字 12~60 に指定されたドットパターンは、以下の配列構造に従って配置されます。

**ドットパターン配列構造**

下記の数字は、配列の添字を示す

12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	32
33	34	35	36	37	38	39
40	41	42	43	44	45	46
47	48	49	50	51	52	53
54	55	56	57	58	59	60

以上